

2019年草木染塾 2月講座

開催日 [2019年2月18日(月曜日)]

開催場所 [川崎市黒川青少年野外センター]

一文紹介 [おりがみ絞り、藍以外で染めた布での抜染]

染め材料：タデ藍（乾燥葉）、インド藍（粉末）、ヤシャブシ（球果）

・おりがみ絞り

木綿のバンダナを折り紙のように折り畳み、数カ所を輪ゴムで縛ることで防染し、模様出しをします。大きな紙を使って折り方を説明してもらいながら、まずは全員で基本的な畳み方や考え方を理解してから、折り方工程の図解を参考に、各々様々なパターンのおりがみ絞りに挑戦しました。

図から正しい折り方を理解するのは案外難しく四苦八苦。予想以上に時間がかかりましたが、染めて輪ゴムを外してみると、次々とこれまでの絞り染めではなかったような幾何学的な面白い模様が現れました。同じ折り方をしても、輪ゴムの数や位置、折りの角度、染液の浸み方などで、少しずつ違う模様になります。

インド藍で染めたものが一番模様がはっきりと出ましたが、タデ藍やヤシャブシで染めたものも、それぞれ面白い風合いが出ました。折り方を少し間違ってしまったものも予想外の綺麗な模様になり、それも面白さの一つでした。

イベントなどでは、折り方をどう理解してもらおうかが課題となりそうです。

同じ折り方で一斉に実施する、複雑でない折り方のパターンに絞るなど、参加者の人数や年齢などによる工夫が必要でしょう。

また、染め液の色合いが薄かったり、内側まで浸透しなかったりすると、模様がぼやけてしまい残念ですので、

イベントの際には、染め液の選定や管理も重要になります。

それでも、板を用意したり糸で縫うことが必要なく、使う道具は輪ゴムだけで、折り方ひとつで模様のパターンは無限大。これは大きな魅力、と実感しました。

・藍以外で染めた布での抜染

抜染のベースとして、ヤシャブシの球果を煮出し、鉄媒染で手ぬぐいを染めました。抜染したときに模様になるべくくっきりと出せる濃い色に染まるよう、染め液と鉄媒染液を何度か行き来しながら、染まり具合を確認しました。

今回は、染め液での浸し染めを3回、鉄媒染を2回で濃いめの色に染まりました。イベントなどでは、時間的に何度も染めることは難しいことも多く、この辺りは悩ましいところですね。

漂白剤とでんぷん糊を混ぜたものを、洋型紙を切り抜いた型に塗り、様々な型を白く抜いていきます。

通常藍染の抜染が一般的ですが、グレーベースの今回のヤシャブシの抜染も、前回染めたイエローベースのスギで染めた布での抜染もなかなかの出来でした。

ベースとなる色によって映える模様も異なり、今回もまた可能性の広がりを感じました。

今回は、今年度最後の草木染塾でした。

草木染経験者のみで実施するという初の試みでしたが、イベントなどの実場面を想定して最適な方法を探ったり、これまで曖昧な経験値に頼ってしまいがちだったものや疑問に感じていたことを確認し記録することができたことなど、大変有意義なものになりました。

とは言え、回を重ねるごとに新たな発見や課題が見つかります。

またこのような機会を持ち、各イベントなど実践の場にフィードバックしていけたら、と思います。

参加者 [前田、瀧浪、桜井、小川、松田]

講師 [奥村、矢吹 (アシスタント)]

報告者名 [松田貴子 (25年)]



折り紙のように折りたたむ



おりがみ絞りの作品



濃い色になるまで染める



漂白剤と糊で抜染する



ヤシャブシを抜染



スギを抜染